

事務職員による勉強会 本格始動へ

クマホの未来創造チーム 「奨学金制度」テーマに試行

職員有志でつくる「クマホの未来創造チーム」による「事務職員による勉強会（仮称）」が8日（月）、キャンパステラスのコロシアムで開催されました。

これは大学職員として求められる知識やスキル、知見を身に付けることなどを目的としており、令和8年度の本格始動を前にトライアルとして行われたものです。

今回のテーマは「奨学金制度」。学務課の行本夏菜さんが、奨学金の種類や、給付型と貸与型それぞれのメリットデメリット、また本学における奨学制度「夢サポ」の給付対象となる要件や給付金額などについて説明しました。途中、夢サポ以外の候補となったネーミングについてのクイズも設けられ、会場は終始和やかな雰囲気に包まれていました。

質疑応答では、本学の学生の奨学金利用の割合などについて質問があり、行本さんは「貸与と給

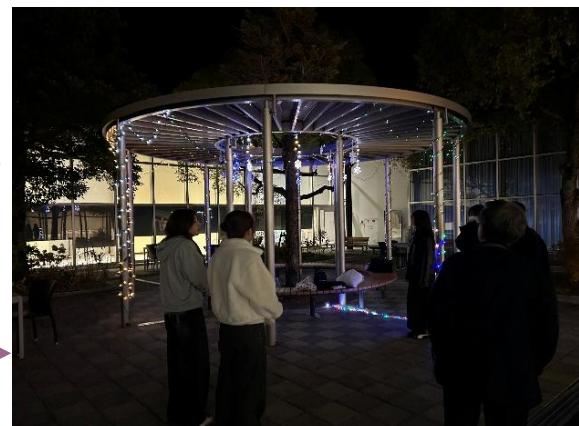
付を合わせて7割以上、多子世帯の支援を加えると8割を超えているように思う。全国的にみても割合は高い方だと思う」と答えていました。

（NL編集部）

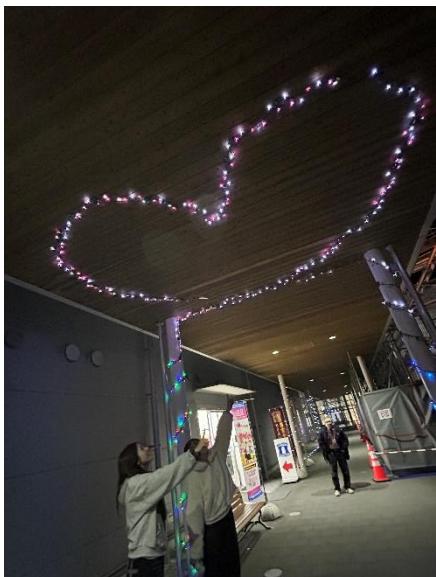


「奨学金制度」をテーマに行われた事務職員による勉強会

ネーション
キャンパススクエアを
優しく照らすイルミ



売店前通路では、巨大ハートにうっとり



正門ではサンタやトナカイがお出迎え

クリスマス・イルミネーション点灯

冬の夜
彩る

クリスマス・イルミネーションが冬の夜のキャンパスに彩りを添えています。学友会のシーズンプロジェクトの一環。冬の風物詩となっていて、1日の授業を終えた学生たちを優しく照らしています。

8日（月）夕方、キャンパススクエアで行われた点灯式では、「1週間かけて飾りつけた」という川竹杏奈さん（医学検査学科2年）ら4人がトーンチャイム演奏を披露。「赤鼻のトナカイ」「ジングルベル」でクリスマス気分を盛り上げました。引き続き、カウントダウンの合図でメインのイルミネーションに点灯すると、集まった教職員、学生の間から拍手が沸き起きました。

クリスマス・イルミネーションは、キャンパススクエア、正門など学内4カ所で、クリスマスの25日（木）まで実施しています。点灯は夕刻から午後9時まで。

（NL編集部）



「繋ぐー」テーマに4人が参加

報告者：宮崎 宣丞助教（理学療法学専攻、健康・スポーツ教育研究センター）

第12回日本スポーツ理学療法学会学術大会が11月29日（土）、30日（日）、札幌市教育文化会館で開催されました。「繋ぐースポーツ理学療法が切り開く社会共創」をテーマに特別講演や教育講演、演題発表など非常に多くのプログラムが展開され、1000人を超える理学療法士が参加しました。

本学からは、枝尾久美講師、本田啓太講師、大学院生の岩切心優人さん、宮崎の4人が参加しました。枝尾講師は、パフォーマンスに関するショート口述セッションの座長、本田講師が指導する大学院生の岩切さんが「健常若年男性におけるティクオフ動作中の床反力-時間曲線と下肢運動力学的指標の関係」と題したポスター発表、宮崎は「若年健常成人男性における膝関節伸展筋力と膝関節自動運動中の大腿直筋の収縮動態との関連」と題したショート口述発表を行いました。

初めて学会発表した岩切さんは「他大学の教員や大学院生、臨床現場の方々と交流し、視野が広

がった。来年は口述発表をしてみたい」と、来年度以降の演題登録に意気込んでいました。教員も様々な知識や刺激を得た2日間となり、本学における理学療法学、健康・スポーツ科学の発展に還元できるように研鑽を継続します。



日本スポーツ理学療法学会学術大会に参加した、左から本田講師、岩切さん、枝尾講師、宮崎助教

口述発表の坂本さん（リハ領域）に奨励賞

報告者：山本 良平准教授（理学療法学専攻）



「奨励賞」の症状を手に喜びの坂本さん

九州理学療法士学術大会（大分市）

本学大学院生（リハビリテーション領域）の坂本希々風さんが、11月29日（土）、30日（日）に大分市で開催された「九州理学療法士学術大会2025 in 大分」で研究成果を口述発表し、奨励賞を受賞しました。

発表テーマは「ビブスの色の自己選択が運動学習に及ぼす効果～バスケットボール関連課題間の転移に着目して～」。バスケットボールにおける基礎的な技術習得、運動学習における自己選択の意義を実証的に検討した内容です。

今回の受賞は、学生の探究心と本学の研究指導体制の成果であり、理学療法教育やスポーツリハビリテーション分野への応用が期待されます。坂本さんは本学の卒業生でもあり、学生時代から意欲的に学び、研究に励んできました。今後はさらに専門性を深め、臨床現場や研究分野で活躍することを期待しています。今後の挑戦を心から応援します。

年内最後の一般選抜 公衆衛生看護学専攻科、助産別科

公衆衛生看護学専攻科および助産別科の一般選抜を6日（土）に実施しました。今年を締めくくる最後の入試となります。早朝の冷え込みが厳しかったですが、体調不良を訴え

る受験者はおらず、滞りなく終了いたしました。合格者は16日（火）に発表します。

（入試・広報課）

投球障害の予防・治療巡り活発議論

「投球障害の予防と治療の最前線」をテーマとした健康・スポーツ教育研究センターシンポジウム2025が11月28日（金）、50周年記念館で開催されました。

冒頭、竹屋元裕理事長・学長が「学内外から参加していただき、嬉しい。今日のシンポジウムが、予防と治療に役立ててありがたい」と挨拶。基調講演では、熊本大学大学院整形外科学講座助教の徳永琢也氏が「投球障害の成因・整形外科的治療と熊本県の現況」と題し講演。投球障害を起こす成因に、成長期の骨格が未熟であることなどを挙げ、代表的な疾患や治療について説明しました。また、整体やコンディショニングを手掛ける合同会社DOTS代表の松本彬氏も「理学療法士による投球障害予防と熊本県の現況」と題して話しました。

引き続き行われた特別講演では、神戸大学医学部附属病院リハビリテーション部特命助教の乾淳幸氏が、機械学習の投球障害予防への活用について、兵庫県内の取り組みを取り上げながら紹介しました。

締めくくりのパネルディスカッションには、講演した3氏に本学教員3人（松原誠仁副センター長、久保下亮理学療法学専攻長、原口実紗講師＝医学検査学科）を加えた計6人が登壇。荒木栄一センター長と熊本大学大学院整形外科学講座の宮本健史教授を座長とし、活発な議論が行われました。（NL編集部）



本学の3教員を含む6人が活発な議論を繰り広げたパネルディスカッション

公衆衛生看護学専攻科「保健医療福祉行政・政策論」

政策立案し『部長』に緊張のプレゼン



各グループの課長役が代表して“部長”に説明



厳しい質問もありましたが、終始和やかな雰囲気で進行しました

公衆衛生看護学専攻科の「保健医療福祉行政・政策論」は、保健師として大切な知識である保健医療福祉行政の仕組みや制度について学びます。

後期は、専攻科生たちが架空の県の保健医療福祉部に所属する行政職員となり、政策を立案する演習を行います。これまで、健康長寿推進課など4つの課に分かれて政策を企画し、資料を作成してきました。

4日（木）の授業では、政策実現に向けた予算を確保するため、所属部長へのプレゼンテーションを行いました。部長役を務めたのは、熊本県健康福祉部の医監を務める木脇弘二氏。専攻科生たちは緊張した面持ちで部長の前に座り、がん検診や子育て支援といったプロジェクトの内容、スケジュールや予算の内訳についてなど、詳細に説明しました。

説明を受けた後、木脇さんは「大変だったね」と労いの言葉をかけつつも、「この提案に予算が下りるかな」「このプロジェクトの何が新しいの」と、行政職員の目線から指摘。専攻科生たちはすぐにメモを取りながら、今後の予算要求のための資料をブラッシュアップしていました。

授業の最後には、木脇氏が資料作成のポイントなどをアドバイスした上で、「丁寧に取り組んでいて素晴らしいと思った。今後働く上で、県民、市民の気持ちを忘れないで取り組んでほしい」とエールを送りました。（NL編集部）

週間行事予定（12月15日～12月22日）

12/17（水）	学校法人銀杏学園理事会
12/19（金）	学園忘年会
12/20（土）	県立高校 学びの祭典